

令和 6 年度

「運営に関する計画」

【最終評価】

大阪市立鯰江東小学校

令和 7 年 3 月

大阪市立鯨江東小学校 令和6年度 運営に関する計画

1 学校運営の中期目標（令和4年度から7年度末）

現状と課題

- 全国学力・学習状況調査において全教科で課題がみられる。特に、全教科で2極化の傾向が認められ、さらなる「わかる授業」づくりが必要である。
- I C T機器の活用を図った授業づくりに取り組んできた。
- 全国学力・学習状況調査の意識調査では各設問に対して「当てはまる」と積極的な回答をしている児童の割合の低い項目が多く、学習や自分についての自信のなさがうかがえられる。
- 学習規律や家庭学習の習慣は身についてきている。しかし、家庭での生活は、携帯電話の使用やゲームの使用の両項目で、多くの時間を使っている児童が多い。
- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、総合的な運動能力に課題がある。
- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における運動に関する意識は、男女ともに否定的な回答が目立つ。運動することが嫌い・苦手と思っている児童が多いのも課題である。
- いじめや不登校の問題において、解決すべき課題はあるが、保護者や関係機関と連携して取り組んでいる。

中期目標

【安心・安全な教育の推進】

- 令和7年度の小学校経年調査「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」と答える児童の割合を90%以上にする。

【1：安全・安心な教育環境の実現】

- 令和7年度の学校生活アンケートにおける「学校生活は楽しいですか」の項目において、「はい・どちらかといえば楽しい」と答えた児童の割合を90%以上にする。

【2：豊かな心の育成】

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度の小学校経年調査における大阪市の総合正答率合計に対する総合正答率の割合が7割以下の児童の割合を、いずれの学年も令和4年度より5ポイント減少させる。

【4：誰一人取り残さない学力の向上】

- 令和7年度の全国体力・運動習慣調査において、体力合計点が大阪市平均を超すようにする。

【5：体力・運動能力向上のための取組の推進】

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和7年度にむけてプロジェクターから液晶モニターに移行し、対話的・協働的な学習形態を進めることで、各種アンケートによる「授業の内容がよくわかる」「学習が楽しい」といった内容肯定的な回答が80パーセントを超えるようにする。

【6：教育DXの推進】

- I C T機器の活用を図り校務における教職員の負担軽減に努め、本校の「時間外勤務時間」を令和3年度3月分より減少させる。

【7：人材の確保・育成としなやかな組織づくり】

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標（小・中学校）

- ・小学校学力経年調査における「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。

【1：安全・安心な教育環境の充実】

- ・年度末の校内調査において不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。

【1：安全・安心な教育環境の充実】

- ・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を前年度より減少させる。

【1：安全・安心な教育環境の充実】

学校園の年間目標

- ・年度末の校内調査の「学校生活は楽しいですか」の項目において、「はい・どちらかといえば楽しい」と答えた児童の割合を90%以上にする。

【2：豊かな心の育成】

- ・年度末の校内調査の「学校ではすすんで挨拶をしていますか」の項目において、「はい」と答えた児童の割合を80%以上にする。

【2：豊かな心の育成】

【未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を70%以上にする。

【4：誰一人取り残さない学力の向上】

- ・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。

【4：誰一人取り残さない学力の向上】

- ・小学校学力経年調査における「外国語（英語）の学習は楽しいですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。

【4：誰一人取り残さない学力の向上】

- ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を80%以上にする。

【5：健やかな体の育成】

学校園の年間目標

- ・全国体力・運動能力習慣調査において、長座体前屈・ソフトボール投げの平均の記録を、前年度より向上させる。

【5：健やかな体の育成】

- ・校内児童アンケートにおいて自分の健康に関心をもつ項目の肯定的な回答の割合を80%以上にする。（清潔検査に加え、歯・口の中の衛生にも関心をもたせるアンケート項目をいれる）

【5：健やかな体の育成】

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標（小・中学校）・学校園の年間目標

- ・授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕
- ・デジタル教材や協働学習支援ツールを活用した学習を週1回以上実施する。

【6：教育DXの推進】

- ・教職員一人一人の時間外勤務時間が1か月45時間以下になった教職員の割合を50パーセント以上にする。

【6：人材の確保・育成としなやかな組織づくり】

3 中期目標及び本年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】

令和6年度の「学校のきまり・規則を守っていますか」について98%と目標の数値を上回っている。また、「学校生活は楽しいですか」の項目において好意的な答えの児童は95%と目標を上回っている。

また、安全安心な教育の推進については、児童・保護者アンケートの結果より「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して児童の割合を90%以上にする目標を大きく上回り96.0%と好意的な意見がさらに増え、子どもたちの意識がより高くなっていることを表す結果となった。しかしながらいじめに関する問題解決に100%取り組んではいるが、約4%の否定的な意見の児童もまだいるという事実を受けとめ、さらに継続的に取り組む必要がある。また、年度末の校内調査における不登校児童の在籍比率と改善の割合を前年度よりも減少させるという項目においては、在籍比率については少しずつ増えてきているが、状況の改善については一進一退はあるものの各担任による声掛けや連携によってよくなっている状況も見られる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

大阪市小学校学力経年調査において、どの教科でも全市平均を超えており、令和6年度の本校の研究テーマを「自ら学び思いや考えを伝えあうことのできる子どもの育成～豊かな話し合いを目指した学習指導の工夫～」と設定し、どの児童も豊かな話し合いができるようにするための研究を進めてきたことが結果として表れている。

毎年、5年生がおこなっている全国体力・運動能力・運動習慣調査の結果から見ると、本校の児童は、長座体前屈、反復横跳び、立ち幅跳びの能力が大阪市と全国を上回っており、握力、上体起こし、20m シャトルラン、ソフトボール投げが大阪市、全国よりも低い結果となっている。体力・運動能力向上の取り組みとして大縄跳びやボール投げ運動などに取り組んできたがさらに工夫を行いながら取り組みを継続していく必要がある。

【学びを支える教育環境の充実】

デジタル教材や共同学習支援ツールを活用した学習を週に1回以上実施するなど「教育DXの推進」を行うことの項目では、ほぼ達成できている。しかし、授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にするという項目においては、7割を超える日が増えており、8割を超える日も出てきているが年間授業日の50%以上にすることはまだできていない。

また、教職員一人一人の時間外勤務時間が1か月45時間以下になった教職員の割合を50パーセント以上にするという項目においては、全教職員の97.3%という割合になっており、達成できている。しかし、教員の家庭への仕事の持ち帰りがなかなか減らないことは現実の働き方改革とはなっておらず、さらなる改善策を講じていく必要がある。

大阪市立鯨江東小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【安全・安心な教育の推進】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。 <p style="text-align: right;">【1：安全・安心な教育環境の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度末の校内調査において不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 <p style="text-align: right;">【1：安全・安心な教育環境の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を前年度より増加させる。 <p style="text-align: right;">【1：安全・安心な教育環境の充実】</p>	B
<p>学校園の年間目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度末の校内調査の「学校生活は楽しいですか」の項目において、「はい・どちらかといえば楽しい」と答えた児童の割合を90%以上にする。 <p style="text-align: right;">【2：豊かな心の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度末の校内調査の「学校ではすすんで挨拶をしていますか」の項目において、「はい」と答えた児童の割合を80%以上にする。 <p style="text-align: right;">【2：豊かな心の育成】</p>	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【1：安全・安心な教育環境の充実】</p> <p>○ 児童の実態を把握し、いじめなどの早期発見に努め、その解消に取り組む。</p> <p>指標</p> <p>○月1回の生活指導部会において、いじめなどの事案について話し合い、本校のいじめ防止基本方針にのっとり、その解決に向けた学校環境づくりに取り組む。</p> <p>○校内アンケートにおける「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、肯定的な選択肢の「はい」と回答する児童の割合を90%以上にする。 (選択肢は「はい」「いいえ」の2択とする。) また、否定的な選択肢の「いいえ」と回答した児童については全員に対してなぜそのように回答したのか確認の上必要に応じて指導を行う。</p>	B
<p>取組内容②【2：安全・安心な教育環境の充実】</p> <p>○「学校のきまり・規則」を常に児童が意識し、実践するように日々指導を行う。</p> <p>指標</p> <p>○校内アンケートを実施し、「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」と答える児童の割合を90%以上にする。</p>	B

<p>取組内容③【3：豊かな心の育成】</p> <p>○自尊心の向上に取り組むと共に、互いに思いやる心を育て、自分のことを肯定的にとらえることができる児童の増加に努める。</p> <p>指標</p> <p>○児童に対する校内アンケートの、「自分には好きなところがありますか。」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。</p>	B
<p>取組内容④【4：安全・安心な教育環境の充実】</p> <p>○不登校児童対策において、保護者や関係機関と連携した取り組みを進め、不登校児童の割合を、前年度より減少させる。</p> <p>指標</p> <p>○年2回の児童理解研修会をもち、児童の状況を適切に把握し、保護者や関係機関と連携して状況に応じた多様な取組みを行う。</p> <p>○児童の状況把握をするための不登校児童対策委員会を月1回職員会議の場に設ける。</p>	B
<p>取組内容⑤【5：豊かな心の育成】</p> <p>○異学年によるグループ活動や行事を通して、お互いの気持ちの交流を図り、協力することの大切さを学ばせる。</p> <p>指標</p> <p>○児童に対する校内アンケートの「友だちや違う学年の人とも仲良くできていますか」の項目について、最も肯定的な回答をした児童の割合を70%以上にする。</p>	B
<p>取組内容⑥【6：豊かな心の育成】</p> <p>○挨拶は人とのつながりがうまれることを児童に指導することを通して進んで挨拶ができる児童を育成する。</p> <p>指標</p> <p>○校内アンケートの「『ありがとう』という言葉で家族や友だちに感謝の気持ちを伝えることができましたか。」の項目を「はい」と答えた児童の割合を85%以上にする。</p> <p>○校内アンケートの「『学校の先生やクラスメイト』『地域の見守り隊』『学校へのお客様』に対して進んで挨拶をしていますか。」において、肯定的な回答をした児童の割合を90%以上にする。</p>	B

年度目標の達成状況の結果分析
<p>①○月1回の生活指導部会で各学年の状況について共通理解を図ることができた。また、重大事案については別途いじめ防止対策委員会を開き対応について協議することもできた。</p>
<p>○校内アンケートにおける肯定的な回答は96%となり、指標である90%以上を達成している。</p> <p>また、否定的な回答をした児童への確認と必要に応じた指導も確実に行うことができた。</p>
<p>②○年2回の児童理解研修会や毎月の不登校児童対策委員会を通じて、児童の実態や状況を把握し、</p>

情報共有や共通理解を深めることができた。また、担任を中心に保護者や関係諸機関とも連携をとりながら、可能な限りの対応することができていた。

しかし、不登校や不登校傾向の児童の減少には至っていない。

- ③ ○肯定的な回答をした児童の割合は、98%であり指標を超えている。生活強調週間や児童会の取り組みなど、きまりや規則について考える機会が多くあり、日々の学級指導の積み重ねだと考える。しかし、生活強調週間の結果や児童の実態を見ると、忘れ物や廊下階段の正しい歩行には課題が残る。
- ④ ○校内アンケートにおいては、肯定的な回答は86.7%で、わずかであるが指標は上回っていた。○それぞれの学級で、いいところを認め合うことができるような活動を行っているが、取り組む内容は学級の裁量により異なっている。
○自尊感情は、自分が認めてもらいたいところを褒められてこそ高まると考えられるので、否定的な回答をしている児童に対しては、その児童に合わせた言葉がけが必要である。
- ⑤ ○年間を通して、児童集会やスクールフェスタ、全校オリエンテーリングなどで異学年交流を行うことができた。たてわり班活動では協力しながら活動し、班の人たちと関わる遊びを楽しそうにしている姿が見られた。
○校内アンケートの「友だちや違う学年の人とも仲良くできていますか」の項目では、最も肯定的な回答をした児童の割合が69.9%と指標は達成できなかったが、肯定的な回答をした児童の割合は97%であった。
- ⑥ ○校内アンケートにおいては、どちらも肯定的な回答は90%以上で、指標を達成しているといえる。
○生活強調週間や、普段からの声掛け等により挨拶は身についてきているように感じられる。しかし、中には声が小さかったり、目を見て挨拶ができなかったりする児童も複数人いる現状もある。
○朝や帰り等のあいさつにおいては、友達や教職員には進んで行う児童が多いが、「学校へのお客様」や「地域の方々」に対する挨拶はまだまだ定着していない児童もいる。
○「ありがとう」という言葉については、道徳の時間や日頃の指導で声掛けを行ってきた。周りへの感謝の気持ちを言葉に表すことができる児童が増えてきた。

来年度への改善点

- ① ○今後も「学校いじめ防止基本方針」に則り、適切な対応を行っていく。また、いじ事案や生活指導事案への早期の対応や担任の負担軽減のための、これまで以上に情報共有を綿密に行っていく。(月1回の生活指導部会を待たずに、職員朝会や臨時の集まり等を利用した対応も必要に応じて積極的に活用する。)
- ② ○引き続き、児童の状況を把握し、情報共有に努め、全教職員で関わるようにしていく。また、保護者や関係諸機関とも連携し、丁寧に対応しながら、不登校児童の改善を図っていく。
- ③ ○生活指導部で看護当番の役割を話し合い、教職員全体に共通理解をすることで、同じ視点をもって児童への指導にあたる。

子ども同士が声を掛け合う場面が増えるように、児童会の取り組みなどを継続的におこなっていく。また、きまりを守れている児童に対して、称賛の声をかけていく。

- ④ ○道徳科の自尊心に関連する教材を、各学年で重点的に取り組むようとする。
 - 各学級で行われている自尊心を高めるための取り組みについて、学校全体で共有するようとする。
- ⑤ ○次年度も毎週の児童集会やスクールフェスタなどのたてわり班活動を継続して行っていく。
 - 次年度より全校オリエンテーリングがなくなるので、今後きょうだい学年での活動なども検討していく。
- ⑥ ○引き続き、教職員も積極的に児童の手本となるような挨拶を行うようにし、児童の意識を高めていく必要がある。
 - 挨拶ができているかできていないかという点だけでなく、挨拶の質を高めていくようにする。
「気持ちの良い挨拶」や「元気よく挨拶」等、具体的に示していくようとする。
 - 「ありがとう」のワードを使うタイミング等、意識的に声掛けを行っていくようとする。

大阪市立鯨江東小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を80%以上にする。 <p style="text-align: center;">【4：誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。 <p style="text-align: center;">【4：誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。 <p style="text-align: center;">【4：誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を80%以上にする。 <p style="text-align: center;">【5：健やかな体の育成】</p> <p>学校園の年間目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 全国体力・運動能力習慣調査において、長座体前屈・ソフトボール投げの平均の記録を、前年度より向上させる。 <p style="text-align: center;">【5：健やかな体の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> 校内児童アンケートにおいて自分の健康に関心をもつ項目の肯定的な回答の割合を80%以上にする。（清潔検査に加え、歯・口の中の衛生にも関心をもたせるアンケート項目をいれる） <p style="text-align: center;">【5：健やかな体の育成】</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【7：誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>○国語科を中心に教員の指導力向上に取り組む。</p>	

<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各教員は年間1回以上の研究授業を行い、指導力の向上を図る。 ○校内児童アンケートにおける「国語の授業はよくわかりますか」に対して、肯定的に回答をする児童の割合を80%以上にする。 ○校内児童アンケートにおける「授業では、学習していることを、すすんで、友だちと話し合っていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。 ○課題のある語彙力や話し合う力の向上を目指した取り組みを年間通して行う。 	B
<p>取組内容②【8：誰一人取り残さない学力の向上・6：教育DXの推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「主体的・対話的で深い学び」を目指した学習に努める。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童が主体的にICT機器を活用する学習場面を設定する。 ○学習の中に、「一人学び」や「ペア、小集団で話し合う」場を設定し、主体的で対話的な学びを推進する。 ○校内アンケートにおける「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、3年生以上を対象に肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。 	B
<p>取組内容③【9：健やかな体の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○子どもの体力・運動能力向上のために取り組みの充実を図る。 ○年間を通して柔軟性や投げる力の向上にむけた取り組みを行う。 ○子どもの体幹を鍛えるための取り組みの充実を図る。 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○課題のある柔軟性・投げる力を高めるための取り組みを全学年で行う。 ○「長座体前屈」「ソフトボール投げ」の記録をとり、次年度で70%以上の児童が今年度の記録を上回るように継続的な取り組みを全学年で行う。 ○校内アンケートの「運動をするのは好きですか」の項目において、最も肯定的な回答をする児童の割合を70%以上にする。 	B
<p>取組内容④【10：健やかな体の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○手洗いや口腔内衛生を保とうとする習慣が身につくように、自分の健康に関心をもたせる指導を行う。 ○食事の大切さに关心が持てるよう、食に関する指導を計画的に行う。 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○保健委員による週1回の清潔調べで、「ハンカチ、ティッシュを持って来ている」と答える児童の割合をどの学級も80%以上にする ○歯科の要受診者の治療受診率を80%以上にする。 ○元気もりもり週間において、「残さず食べた」と回答する児童の割合を90%以上にする。 	B

年度目標の達成状況の結果分析

- ① ○全学級で研究授業を行い、学年の話し合いが深まった。全教員が研究授業をすることで他人事に考える教員がいなくなつた。
- 国語の授業はよくわかりますかに対して肯定的に回答する児童が94%であった。
- 進んで話し合っていますかが12月のアンケートでは95%であった。
- 国語タイムを設定し、語彙力や話し合う力の向上を目指した取り組みを年間通して行った。
- ② ○学校全体でICT機器のよさを生かした学習場面を積極的に取り入れ、活用できた。
- 国語科の学習を中心に「一人学び」で自分の考えをもち、ペアや小集団で話し合い、全體交流することで、主体的に対話的な学びを進めることができた。
- 「外国語の学習は好きですか」の校内アンケートの結果、80%以上の肯定的な回答を得ることができなかつた。
- ③ ○柔軟は、家庭学習と体育の準備体操時に行うことができている。しかし学級でのばらつきはある。
- 投げる力では、ボールスローとストラックアウトの常設し、月に一回イベントで自分の飛距離を計測できるようにしている。
- アンケートでは最も肯定的な意見は70.1%で肯定的な意見は89.4%であった。
- ④ ○保健委員による週1回の清潔調べで、ハンカチ、ティッシュを携帯する意識が高まつた。
- 学級での声かけや学級での清潔調べなどの取り組みもあり、「ハンカチ、ティッシュを持って来ている」と答える児童の割合が学校全体では、90%をこえていた。どのクラスも80%までとはいたらなかつた。
- 歯科衛生指導やCO・GO検診が行われ、歯科の受診者の治療受診率は85.3%であった。
- 栄養指導が計画的に行われ、食事の大切さに关心がもてた。元気もりもり週間において「残さず食べた」と回答する児童の割合は97.5%をこえていた。

来年度への改善点

- ① ○系統性を図る。系統的な指導をして、児童の力を積み重ねる。
- 国語科に限らずどの教科でも自然と話し合いが生まれる指導力や発問力が必要。
- 国語タイムを継続していく。(週1回程度)
- 全学級研究授業の方が全員で取り組む、若手・ベテラン関係なくどの先生の授業も見ることができる(動画も撮っている)、などメリットが多いが、負担は多い。
- 国語タイムや算数タイムをすべて昼の時間にするのではなく、火曜日金曜日の朝の時間を使って算数プリントなどを活用してもよい。
- ② ○来年度も、児童が主体的にICT機器を活用するための場を工夫していく。
- ICT機器活用の研修会を開いて実践交流し、活用の頻度を上げていく。
- 来年度も引き続き国語タイムを活用し、すべての児童が自分の考えをもって話し合いに参加できるような学習場面を工夫していく。
- 引き続き、全学年でモジュールタイムを確実に行うとともに、低学年のモジュールを3年生以上の学年の指導に活かしていく枠組みを考え、実践していく。
- 児童の実態に合わせた指導をするため、C-NETや学年間での打ち合わせや情報の共有を行っていくとともに、いろいろな指導方法を取り入れ、児童の意欲を引き出す指導法を考えていく。

- ③ ○柔軟性と体幹は、運動するにあたって絶対的に必要なため、継続して行っていく。体育時に必ず柔軟運動を取り組むようにする。
 - 投げる力は今年度も大阪市・全国平均と比べて下回っている。運動場の状況にもよるので継続するのであれば、常設を増やす、投げる力が向上するために 1 年間継続して取り組めるものが必要になってくる。
 - 自分が何の力をつけたいのか決めて、日々運動して 4 月の自分と比べることや（縄跳び・走力・ボール投げ・竹馬・一輪車・鉄棒・雲梯・のぼり棒など）アンケートで伸びたかどうか自分で判断し確認する。
- ④ ○携帯率が高くなっているので、水曜日ではない曜日に調べてみる。
 - 児童が歯と口の健康について考え、治療の必要性に気づけるように継続指導していく。
 - 食事の大切さ、自分で食べられる量の調整などを考えた給食指導を行う。

大阪市立鯰江東小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）・学校園の年間目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕 デジタル教材や協働学習支援ツールを活用した学習を週1回以上実施する。 <p>【6：教育DXの推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員一人一人の時間外勤務時間が1か月45時間以下になった教職員の割合を（50）%以上にする。 <p>【7：人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【6：教育DXの推進・9：家庭・地域等との連携・協働した教育の推進】</p> <p>○低学年は、新たな端末に慣れ親しみ、3年生以上は、デジタル教材や協働学習支援ツール（TEAMS、ナビマ、スカイメニューなど）を活用する。</p>	
<p>指標</p> <p>○校内アンケートを実施し、低学年は「タブレット端末での学習に取り組みましたか。」の肯定的回答を80%以上にする。3年生以上は「協働学習支援ツール（TEAMS、ナビマ、スカイメニューなど）を利用して友達の意見を聞くことができましたか。」の肯定的回答を80%以上にする。</p>	B
<p>取組内容②【7：人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>○教職員一人一人の時間外勤務時間が1か月45時間以下になるようにする。</p>	
<p>指標</p> <p>○教職員個人が持ち帰りの仕事を含めて、45時間以下の勤務外労働時間になるようにする。また、その教職員が全体では50%以上にする。</p>	B

年度目標の達成状況の結果分析
<p>① ○指標を達成することはできてた。</p> <p>○頻繁に使用している学級とそうでない学級に分かれている。</p>

○教員の得意不得意が顕著に子どもたちの実力として出てきてしまうため、学級・学年間での差が生まれている。

- ② ○年間を通して時間外勤務時間45時間以上の割合は全体の6%となった。また、時間外勤務時間60時間以上についても0.6%という結果となっている。しかし、自宅等への持ち帰り業務がありそこに計上されていないものも存在する結果となつた。そのことを踏まえ、業務量の軽減に向けて、業務の精選及びは授業時間数の調整、指導教科数の改善などに努めていく。

来年度への改善点

- ① ○「研修会に参加し、指導者側が知識をつけること」が意見として多くあがつた。来年度、外部での研修会の周知、校内研修会の検討を行う。
- 校内研修会を懸念点としては、教員の中すでに差があるためどのレベルを基準として実施するかが難しい。今年度もメンター研修でICT研修があつたため、積極的な参加をお願いしていく。
- 学校としてどんな使い方をしていくかの指針を示していく。児童の情報活用能力の到達度目標を設定し、各学年その目標を達成した状態で次年度に引き継いでいけるようにする。
- ② ○年間授業時間数の見直しを図り、指導にあたる教師が教材研究を行う時を十分に確保していく様にする。同時に、一人あたりの指導教科数の調整、年間行事の見直し、各種会議の精選も継続的に行っていく様にする。